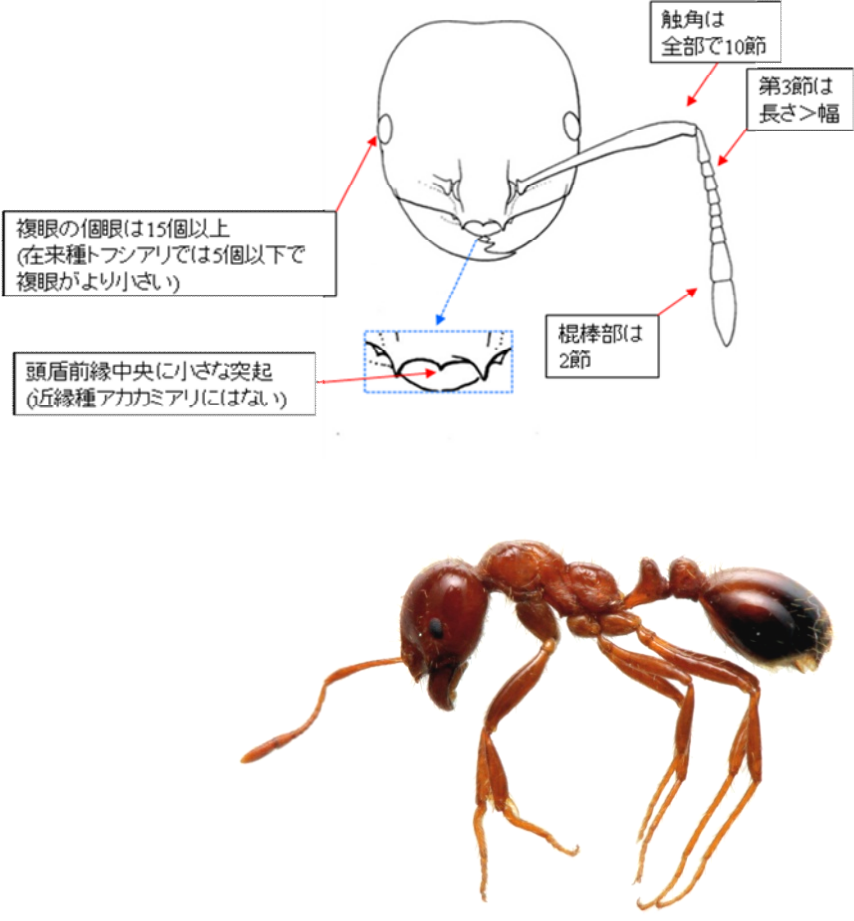


掲載種の付加情報公表の一例（案）

基本情報		
名称	和名 ヒアリ 別名：アカヒアリ 学名 <i>Solenopsis invicta</i> 英名 red imported fire ant	現在定着している又は影響を与えることが知られている主なハビタット 草地、 農耕地、市街地、河川敷、
原産地	南アメリカ	
形態的特徴	<p>体長 3～5mm。赤褐色で頭部は褐色。頭部頭盾の歯は 3 本。触角は 10 節で先端 2 節は棍棒状。腹柄は 2 節で、前伸腹節にトゲを持たない。複眼は 15 個以上の個眼で構成される。働きアリは大型でも巨頭化しない。</p> 	
生態的特徴	裸地や芝生等の開けた空間に最大で直径 100cm、高さ 40cm ほどになるドーム状の特徴的なアリ塚を形成する。森林的な環境には進出しない。巣を攪乱して刺激を与えると集団で防衛する。女王アリは 1 日に 2000 個もの卵を生産することができ、成熟したコロニーは 40 万頭を超える。単女王性のコロニーと多女王性のコロニーが存在する。	
侵略性に係る情報		
影響・被害	(生態系への影響・被害) 高い採餌能力や防御物質の分泌、働きアリによる侵略等による他種のアリと競合して	

	<p>駆逐する。集団で攻撃して節足動物等の小動物を捕食する他、爬虫類、小型哺乳類を捕食したり、鳥類の営巣・雛の営巣に影響を及ぼす事例が報告されている。</p> <p>(人の生命・身体への影響・被害)</p> <p>働きアリが腹部に持つ毒針で刺されると激しい痛みを覚え、アルカロイド系の毒により発汗、激しい動悸、息苦しさを伴うアレルギー反応を引き起こす。重篤な場合は危篤、死亡に至る事例もあり注意が必要である。</p>
侵入経路	<p>日本未定着。これまでに侵入事例の報告はない。</p> <p>海外の事例では、経路は明らかではないものの、物資に随伴した非意図的な導入と考えられる。米国への侵入は船荷への随伴が起源と考えられている。台湾では空港周辺で発見され、港湾では見られないことから、航空機による侵入が推測されている。</p>
定着可能性	日本の気候では関東地方以西以南で、定着可能と言われている
定着状況	国内未定着。国外では米国（1942年）、オーストラリア（2001年）、台湾（2004年）、中国南部（2005年）、マレーシア（2001年）等に侵入定着。
侵入後の分布拡大経路	米国では土砂、園芸植物、苗木、芝、土木機械、農産物、廃棄物等の移動への非意図的な随伴による分布拡大の可能性が指摘されている。また、洪水時等に河川や湖で水面に浮遊して拡散することも報告されている。
利用状況	法律上の許可を得た研究目的の輸入がごく少数あったのみ。
防除に係る情報	
対策の方針	侵入警戒を目的とした侵入状況モニタリングを各地の主要港湾で実施し、もしも侵入が確認された場合は徹底した初期防除を実施し、国内への定着を阻止する。
法規制状況	外来生物法 <特定外来生物>
効果的な防除手法	餌剤の散布が最も効果的と考えられる。液剤の直接散布は即効性があるが、巣の中に生息している女王アリをはじめとする多くのアリ個体に浸透させるのは困難である。根絶を目標に防除するには餌剤を与えて、コロニー単位での防除を考慮することが肝要。
防除等の取組事例	<p>国内での侵入事例はない。</p> <p>ニュージーランドでは侵入初期の発見・防除で侵入防止を達成している。</p> <p>IUCN の ISSG のデータベースで各国の防除に関する情報のリンクあり。</p> <p>http://www.issg.org/database/species/management_info.asp?si=77&fr=1&sts=&lang=EN</p>
参考文献	
<p>東正剛他 2008 ヒアリの生物学—行動生態と分子基盤—。海游舎。206pp.</p> <p>Tschinkel, WR 2006 The Fire Ants. Belnap Press of Harvard University Press. 752pp,</p>	